

東公民館

わくわく稲作体験活動

北伊予小学校5年生の取組

北伊予小学校教諭 庭瀬 臣吾



連を図りながら米作りの工夫について学び、農家の人々の知恵に気付くことなどをねらいとしています。

今年度も、6月22日(金)に小雨の中で実施しました。手作業による田植えが初めてという児童も多く、泥の感触にとまどいながらも、あちこちで歓声や奇声上がるなど、楽しい田植えのひとときとなりました。

昔ながらに、定規をひいて赤い印のある所に苗を植えていきます。一度に10本以上



本校では、人・地域・環境とのかわりを通して、自己の課題を追求していく力を育てるとともに、生活に生きる力を養うことを目標に「総合的な学習の時間」を推進しています。その一環に5年生は、「米作りに挑戦in 北伊予」と題した田植え体験活動があります。この活動は、昨年度から実施していますが、保護者や地域の老人クラブの皆さんとの交流を通して、農業の苦労や働くことの喜びを知る

も植えてしまう児童もいれば、腰の痛さに悲鳴を上げる児童、あぐらの果てには泥に足を取られてしりもちをつく児童も出てくる始末です。しかしながら、田植え後の児童の感想は、一様に「楽しかった。」「泥の感触が気持ちよかった。」「またやりたい。」「といった感想が書かれていました。老人クラブの方々の手際の良さや知恵に感心したという児童や昔ながらの農法の大変さを痛感したという児童も多く、今回の田植えが貴重な体験となったことは言うまでもありません。

今後、地域の老人クラブや保護者と連携を図りながら、稲刈りや餅つきなどの一連の活動を計画しています。体験に勝る学習なしともいわれませんが、これらの体験活動をより一層充実させるとともに、総合的な学習の時間の在り方について研究を深めていきたいと考えています。

補導センターだより

ほめ上手

北伊予中学校生徒指導主事 宅見 浩

今から十数年前に、現在、福岡ダイエーホークスの監督をされている王貞治さんの講演会が松山でありました。私も友人と連れ立って参加し、貴重なお話を聞かせていただきました。その中で、王さんは、「指導者にとって大切なものが二つあります。それは、『情熱』『一貫性』『ほめること』です。」「とおっしゃっていました。

いいことを聞かせていただいた、明日から頑張ろう。と意気揚々と帰り、張り切って翌日からの学校(学級や部活動)での指導にあたりました。

そこで改めて思ったのは、ほめることの難しさとこれほどあまりほめていなかったという事です。いざ、中学生をほめると言っても、何をどうほめればいいのか適当な場面・言葉がみつかりません。結局は、怒るだけで終わりという、いつも通りのパターンに落ち着いてしまいました。しかるよりほめる方が効果が

あるということは何度も聞いて分かっているつもりですが、実際にはタイミングよくほめることはなかなか難しいものです。

私の周囲に、「ほめ上手」な方がいます。ちょうどよい場面でちょうどよい言葉が出ます。ほめるのも一つの才能ではないかと思うことがあります。ですが、どうもそれだけではないようです。そういう方は、普段から人をよく見ているのだと思います。一場面だけをとらえてほめるのではなく、その人のよいところをしっかりとつかんでおいて、的確な場面での確かな言葉でほめる。だからほめられた人は、素直に受け取り、うれしくなり、やる気がわいてきます。そんな気持ちになることが多

い人ほど、明るく優しい心か育ってくるのではないでしょう。そんな人が多いほど、より明るく住みやすい社会になるでしょう。みんなで「ほめ上手」になりませんか。